

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化^(△03)

研究組織 石村智、鎌田紗弓、牛村仁美、金昭賢(以上、無形文化遺産部)、飯島満(特任研究員)

目的 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成果

1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8、DVCを中心に媒体変換を行った。
2. 音声記録のデジタル化は、令和2年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また、民謡のオープンリールテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープのうち、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
4. 写真資料に関しては、石井雅子撮影歌舞伎舞台写真のデジタル化されたものの整理を行い、その一覧表を『無形文化遺産研究報告』第16号で公開した。
5. 無形文化遺産関連の音声映像資料155点(作成DVD2点・作成BD153点)を所蔵資料として新たに登録した。

発表

- 石村智：「資料紹介：石井雅子撮影歌舞伎舞台写真デジタルデータ一覧」『無形文化遺産研究報告』16 pp.147-157 22.3